

濤沸湖

(とうふつこ)

位置：北緯43度56分、東経144度24分／標高：1m／面積：900ha／湿地のタイプ：汽水湖／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区、国定公園特別地域
／所在地：北海道網走市、小清水町／登録：2005年11月／国際登録基準：1、2、3、5、6

湿地のタイプ：汽水湖



濤沸湖の全景



濤沸湖と斜里岳



東から見た濤沸湖の全景

ヒシクイ、マガンなどの群れ



春から秋には、ハマナス、エゾスカシユリ、エゾキスゲなどの野生の花々が咲き乱れ、濤沸湖の美しい景観とともに多くの観光客が見物に訪れる。これらの植生の維持、回復のため、開花前の春には毎年、野焼き（火入れ）が行われている。

【ヒシクイ】 体長約85cm。体は全体に暗褐色で尾は白い。嘴の先端近くに橙色が見られる。春と秋に湖沼、

湿地の概要：

北海道北東部のオホーツク海沿岸には、日本列島最北端の宗谷岬から世界自然遺産の知床半島にかけて、クッチャロ湖、コムケ湖、サロマ湖、能取（のとり）湖、網走湖、濤沸（とうふつ）湖などの湖沼がつづいている。

そのいちばん南にある濤沸湖は、先住民族アイヌの言葉で「トプツ（湖の口）」と呼ばれる湖である。砂洲の発達でつくられた細長い砂丘によって海と遮断され、湖の北西端でわずかに海とつながっている汽水湖である。周囲27km、面積は900ヘクタール。平均水位は約1.1mで、最深部でも2.5mときわめて浅い。渡り鳥にとっては絶好の環境にあり、中継地、越冬地として利用されている。

鳥がいつもいる湖：

ガンカモ類は毎年6万羽以上が飛来し、とくにヒシクイ、オオハクチョウ、ヒド

リガモ、ミコアイサ、ウミアイサは東アジア地域個体群の個体数の1%以上を支えている（2005年時点）。オジロワシ（一部留鳥）、オオワシも越冬に訪れ、タンチヨウも数つがい繁殖している。

湖岸の低地には塩性湿地帯が発達し、オオシバナ、ホソバナシバナ、エゾツルキンバイ、アッケシソウの群落分布している。淡水湿地帯にはヨシ群落、ヤラメスゲ群落、ヌマガヤヤチヤナギ群落、ハンノキ林が分布している。

湖にはコアマモの藻場が形成され、古くからスジエビ、ヤマトシジミやカキなどの漁業が行われてきた。漁業者たちは、稚魚放流や自主規制による資源管理型漁業を行っている。

原生花園：

濤沸湖西岸からオホーツク海につづく砂丘上の約8km、面積275ヘクタールの湿原植生群落を小清水原生花園という。

河川敷、水田、草地に飛来する旅鳥。繁殖地であるカムチャッカから濤沸湖を經由して宮城県の伊豆沼などで越冬。国の天然記念物及び環境省RLの希少種に指定されている。ヒシクイの群れに類似種のマガンが混じっていることがある。

●関係自治体

網走市役所 Tel: 0152-44-6111
小清水町役場 Tel: 0152-62-2311

